

東京短期大学 設置認可

日本歯科大学新聞

東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞
発行兼 中原 泉
編集人 1部 10円
発行日 偶数月末日
定価 1部 10円
編集室 (〒951-8580)
新潟市浜浦町1-8
☎ 025(267)1500

建学 100年
2006 NIPPON DENTAL UNIVERSITY
伝統と創造
本学創立100周年
校友会ロゴマーク

本年4月に開学

首都圏最初の技・衛短期大学

かねて申請中であった本学の東京短期大学は、昨年十一月三十日に文部科学省より設置認可を受けた。これにより、本年四月一日に、首都圏最初の歯科技工士・歯科衛生士短期大学として開学する。



短期大学玄関の仮プレート前、(右より)中原理事長、西田校長、古屋学長予定者

本学は、03年四月中旬に東京短期大学設置準備委員会(委員長・中原泉理事長)を設置し、申請準備をスタートした。これは03年の国の規制緩和政策により、首都圏における大学設置の規制が緩和されたことから、東京の短期大学設置に着手したものである。

申請作業と手続きは、西田紘一附属歯科専門学

専門学校を改昇格

このたびの短期大学設置は、歯科技工士および歯科衛生士教育の向上充実を図って、実質的には既存の附属歯科専門学校を改組し昇格させたものである。

短大の校名は「日本歯科大学東京短期大学」で、学科は歯科技工学科(修業年限二年)と歯科衛生学科(修業年限三年)で、入学定員は各々七十名、五十名となる。卒業生は、準学士の称号を得る。

学長に古屋教授

短大の本部は、専門学校と同じ千代田区富士見二一三六で、専門学校が使用している五階建が主要校舎となる。東京の中心のJR飯田橋駅からのアクセスは、尾崎順男

学長	古屋 英毅	講師	尾崎 順男
歯科技工学科	丸茂 義二	講師	山口 佳男
教授	中山 正彦	歯科衛生学部長	福田 雅臣
教授	上野 隆治	教授	福田 雅臣
助教授	榑木 寿男	教授	柴田 潔
助教授	朝比奈栄次	教授	斎藤 洋一
講師		助教授	荒井 千明
		講師	合場千佳子
		講師	野村 正子



標本室中央のゾウの頭蓋骨を囲む見学中の学生

新潟 骨格標本室を開設する

新新潟歯学部解剖学第一講座 影山幾男

新新潟歯学部解剖学講座では、開設当初より附属病院地下の解剖学実習室に、約五〇個体の動物の骨格標本を所蔵しておりました。

平成十四年に講堂の二階奥に骨格標本室を設置することとなり、翌十五年六月には二階の改装工事が終了し、動物骨格標本のほとんど全てを実習室から移送しました。

その後、東京慈恵会医科大学より、ドイツ人交連骨格標本・男女二体、分離頭蓋骨約一千個体、頭蓋他骨格約五十体を無償で譲り受けました。

そこで、新新潟歯学部所蔵のインド人頭蓋と合わせて人類学セクションを設置することができ、人類学と比較解剖学のセクションが誕生し、平成十六年十一月に骨格標本室を開設しました。

このたび、各セクションごとに展示標本に関する説明文をプレートにし、また頭蓋の男女の性差などが理解できるよう、図解入りパネルを掲示しましたので、学生や教職員の方々にも馴染みやすくなったと思います。

骨格標本室に入ると、まず目の前に大きな象の

標本があり、右が比較解剖学、左は人類学のセクションになっています。比較解剖学セクションでは、展示ケースの上に貼ったテープの色により動物標本を分類しました。黄色のテープが貼られたケースには、十三種の霊長類と、十二種の雑食性動物が分類展示されています。赤色のテープは肉食性動物で十三種、青のテープは七種の水棲動物(哺乳類ならびに一部爬虫類を含む)、緑のテープは十五種の草食類動物です。

そして、人類学セクションのケースや棚には、ドイツ人男女の交連骨格各一具、日本人二具、インド人二十具の頭蓋、そして上顎骨、下顎骨、篩骨、蝶形骨、側頭骨、鋤骨などの分離頭蓋骨を収蔵・展示しています。

教育課程は、豊かな教養と人格を備えた高度の医療技術者を育成するために、(1)豊かな人間性、(2)コミュニケーション能力、(3)専門的実務を遂行する知識技術、(4)医療従事者としての倫理観を教育目標として、幅広い密度の高いハイレベルのカリキュラムが編成されている。

05年の最初の入学試験は、両学科とも05年一月二十三日に推薦入学試験、二月十一日に一般入学試験が実施される。

東京短期大学は、昭和六十二年に開学した新潟

短期大学に続いて、本学二校目の短期大学となる。附属歯科専門学校は、在校生が修了する07年三月まで併設される。本学では専門学校閉校後も一連の学校として、創設期間および卒業回数は、専門学校からの通し番号で数えることとしている。

なお、このたびの東京短期大学は、歯科技工士学校として二校目、歯科衛生士学校としては十三校目、歯科大学併設校としては五校目、首都圏では最初の、歯科技工士・歯科衛生士の短期大学となる。

平成17年度歯学会大会

とき 平成17年6月4日(土)
ところ 新潟歯学部講堂
メインテーマ 「社会のニーズに応える歯科医療」
大会長 関本恒夫 (新潟歯学部附属病院院長)
問合せ 準備委員長 黒川裕臣 (附属病院総合診療科2)

客員教員
アデレード大学教授 Dr. G.C. Townsend
客員教授を委嘱する(新新潟歯学部解剖学第一講座) 平成十六年十月三十日
プリティシユ・コロンビア大学教授 Dr.D.M. Burnette
客員教授を委嘱する(歯学部衛生学講座) 上海第二医科大学口腔医学院基礎教研室助教 Dr. 陶 栗嫻
客員助教を委嘱する(新新潟歯学部医の博物館) 平成十六年十一月一日 本学

地震被災地に歯科支援

新潟歯学部附属病院口腔外科 田中 彰

新潟



避難所となった小千谷市総合体育館メインアリーナ

本学から支援チームを派遣

平成十六年十月二十三日午後五時五十六分、北魚沼郡川口町を震源とする震度七の激震が、新潟県中越地方を襲い大きな被害をもたらした。十七年一月五日の新潟県中越大震災災害対策本部の発表では、死者四十名、負傷者四五六二名、住家被害全壊二八四棟、大規模損壊一六八〇棟、半壊九三九四棟、一部損壊は八九七八棟に及ぶという。中越地方では多くの校友の自宅、歯科診療所も大きな被害を受け、一時診療不能に陥った診療所も少なくなかった。

十月二十七日には、歯科医療支援チームの先遣隊として、新潟県歯科医師会から岡田広明専務理事(本学57回卒)、新潟歯学部より江面晃教授(附属病院総合診療科4科長・在宅往診ケアチーム長)と田中彰講師(同口腔外科医長)が小千谷市に派遣された。現地で、小千谷市北魚沼郡歯科医師会の佐藤真会長(62回卒)、直江昌利専務理事(74回卒)、鞍立常行県歯会理事(72回卒)と合流し、小千谷市総合保健センター内に歯科医療救護所を設置した。

翌十月二十八日より歯科医療救護活動が本格的に稼働し、両大学より隔日交代で歯科医師二、三名(県歯科医師会、現地



被災者への貢献に対し、県知事から感謝状が贈られた

また、十二月十六日には泉田裕彦新潟県知事より、本活動に対する感謝状が関本恒夫附属病院長に贈呈された。

一方、学内においても被災地への義援金募集活動が行われた。新潟歯学部と新潟短期大学の教職員からの義援金五十六万一千円が、新潟県中越大震災災害対策本部等へ、学内に設置された募金箱



避難所を巡回して、口腔ケアや口腔衛生指導を行う

が投入された。さらに多くの避難者を抱えていた小千谷市総合体育館には、歯科医療相談所を設け、歯科医療相談と支援物資である洗口液、歯ブラシ等の口腔ケア用品の配布を行っていたが、十一月五日からは、神奈川県歯科医師会が派遣した検診車が設置され、歯科医療救護活動を行った。ライフラインが復旧し、地域の歯科医院が診療を再開したことにより、十一月十三日をもって応急歯科治療を目的とした救護所は閉鎖し、その後は巡回による口腔ケアと口腔衛生指導を行った。

巡回診療は、避難所における高齢者や要介護者の口腔衛生管理、誤嚥性肺炎防止において大きな効果が期待される。

十月二十八日から十一月二十一日までの支援活動では、歯科応急処置患者数一三三名、避難所巡回による口腔ケアと口腔衛生指導は一五カ所で一〇八〇名に及んだ。

本学からは歯科医師二名(延べ三十七名)、歯科衛生士は新潟短期大学を含め二十九名(延べ四十二名)が参加し、今回の歯科医療支援活動に大きな貢献を果たした(氏名後掲)。

また、十二月十六日には泉田裕彦新潟県知事より、本活動に対する感謝状が関本恒夫附属病院長に贈呈された。

一方、学内においても被災地への義援金募集活動が行われた。新潟歯学部と新潟短期大学の教職員からの義援金五十六万一千円が、新潟県中越大震災災害対策本部等へ、学内に設置された募金箱

に寄せられた十六万九八六六円は、日本赤十字社に贈られた。

新潟県中越地震歯科医療支援チーム参加者

☆歯科医師
関本恒夫(病院長)
渡辺文彦(副病院長)
江面 晃(総診療科4)
黒川裕臣(総診療科2)
植木 誠(補綴学1)
横須賀孝史(総診療科4)
伊藤英史(総診療科4)
村田容子(総診療科1)
田中紀裕(保存学II)
後藤基善(総診療科2)
渥美陽二郎(総診療科3)
上田一彦(総診療科3)
酒井辰弥(総診療科3)
大野裕美(小児歯科)
田中 彰(口腔外科)
戸谷収二(口腔外科)
小林英三郎(口腔外科)
小西雅也(口腔外科)
伊藤秀俊(口腔外科)
長澤貴子(口腔外科)
小黒英紀(口腔外科)
海津基生(歯科麻酔・全身管理科)

口内ケアも十分に

肺炎など病気予防へ不可欠

中越地震の避難所で、県歯科医師会や大学、県などの歯科医療チームが被災地を巡回して、口腔ケアを続けている。阪神淡路大震災時、水不足や避難所暮らしの不衛生から歯磨きができず、口腔ケアが不足し、肺炎などの病気が発生した。被災地では、十分な口腔ケアが不足している。被災地では、十分な口腔ケアが不足している。被災地では、十分な口腔ケアが不足している。



歯科医療チームの巡回診療。「避難所に来て、初めてちゃんと入れ歯を洗えた」という高齢者も=川口町の川合神社

被災者の声 次々と余震きて怖い／仮設校

歯科支援活動を報じる地元紙の新潟日報(11月13日)



小千谷市総合保健センターの救護所での応急歯科診療



避難所にて歯科医療支援を行う本学のスタッフ



新年賀詞交歓会で、本学支援チームが紹介された(1月5日)

☆歯科衛生士
(附属病院歯科衛生科)
三富純子 畠由美子
白井かおり 松岡恵理子
佐々木典子 八子祥子
相方恭子 吉川浩子
丹羽奈津子 鈴木明子
土田江見子 長谷川陽子
関根千恵子 長谷川幸世
吉富美和 池田裕子
榎 佳美 拝野敏子
高野貴子 熊倉幸子
渡辺真紀 山崎明子
坂井由紀 藤田浩美
(新潟短期大学)
宮崎晶子 佐藤治美
片野志保 将月紀子
原田志保 (順不同)